

御宸翰之御寫



朕幼弱を以て粹小大勢を紹ぎ尔來
何を以て万国に對立し

列祖之事一奉らんやと朝夕恐懼小

堪さる也竊ふ考るに中葉

朝政衰へり武家權を専らじ

表々

朝廷に推尊しを實を敬して是を

遠け億兆の父母とて絶て赤子の

情を知ると能はらず中計をなし

遂に億兆の君も唯名のみに成り

果其が為乎今日

朝廷乃尊重ハ古一ニ倍せり如くぞ

朝威ハ倍衰上下相離るるに霄壤

遂に億兆の君も唯名の爲に成り
果其が爲す今日

朝廷乃尊重ハ古一ニ倍セシ如ク

朝威ハ倍衰上下相離シト霄壤

の如クハ形勢ハ何レ以テ天下

ニ君臨せんヤ今般

朝政一新の時ニ齊王天下億兆一人

其處を得ざる時ハ皆

朕が罪也如ク今日ノ事

朕自身骨を勞し心志ヲ苦メ艱

難乃先日立古

列祖の盡クセ給ク蹤を履ム

治蹟を勤メクヨリ始メ

天職ヲ奉ルニ億兆乃君多ク所

背ラズルニ往昔

列祖萬機を親ラシ不臣の事

あまは自ら將クこれヲ征

玉

朝廷の政總ク簡易スル如ク

尊重ナクシテ人君臣相親シ

ミ上下相慶シ徳澤天下に

洽ク國威海外ニ輝クあり

然ルニ近來宇内大ニ開キ各國

車及正終

尊重なるも君臣相親し

み上下相慶し徳澤天下に

洽く國威海外に輝けりあり

然るに近來宇内大に開き各國

四方に相雄飛をす時不賞を

獨我邦の世界に形勢なり

之を旧習を固守し一新の

效をすべし

朕後ら九重中にお安居し

一日の安き我倫に百年に憂

を忘るる事な遂に各國の凌侮

我受け止む

列聖を辱し免奉り下億兆

を苦しめん事を恐る故に

朕にお百官諸侯を廣く相

誓ひ

列祖の御偉業を継述し一身

乃艱難辛苦を問を親ら四方

を經營し汝億兆に安撫し

遂に万里の波濤を拓開し

國威を四方に宣布し天下に

富岳に安きお置んしを欲を

汝億兆旧來の陋習を慣を尊

を經營し汝億兆安撫し
遂より万里の波濤を拓開し
國威を四方に宣布し天下に
富岳は安きふ置んしを欲を
汝億兆旧來の陋習を慣を尊
重の事

朝廷に事と形し

神州の危急を去るは

朕一たび足は攀むは非常

の驚き種々の疑惑を生し

萬口紛紜し

朕の志をふくむは時ハ

是

朕を君たる道を失し

むは此をなすは後

列祖の天下を失し他

汝億兆能々

朕の志を辨認し相率て私見

を去り公義を採り

朕が業を助

神州を保全し

列聖の神靈を慰し奉じ

先づ生前の幸甚なりん

成去り公義に採り

朕が業を助

神州に保全

列聖の神靈を慰し奉じ

先づ生前の幸甚なりん

右

御宸翰之通廣く天下億兆の

蒼生を

思食を給ふ深き

御仁恵の御趣意を末々

之者に至る迄敬承し奉り

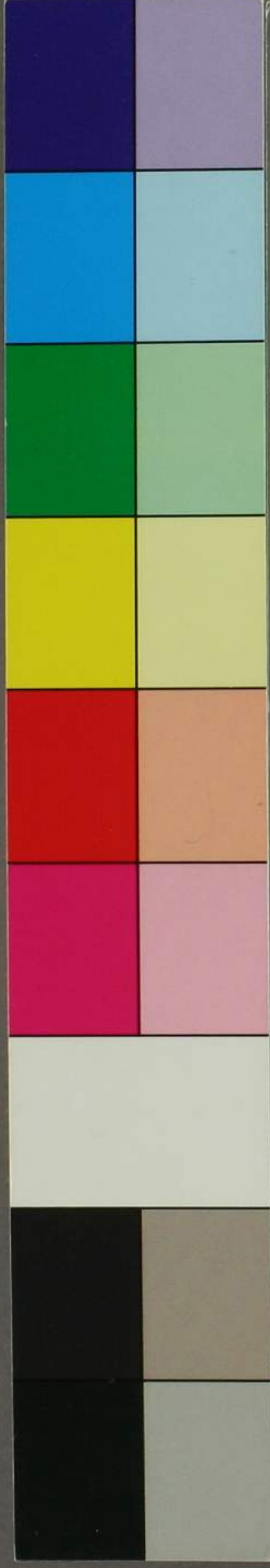
心得違無之

國家の為に精々其分を盡

す事

三月

總裁
輔弼



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



8 9 9 40 1 2 3 4 4 5 5 6 6 7 8 8 9 9 50 1 2 3 4 5 5 6 6 7 8 8 9 9 60 1 2

御宸翰之御寫
慶應四年三月

特別
へ 2
4867
77